令和４年度第２回秋田県立近代美術館協議会　書面開催（要旨）

１．開催日程

令和５年１月　６日（金）　新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による書面開催

２月１４日（火）　協議会委員からの書面による意見等回答期限

３月２７日（月）　書面による質問及び意見等に対する回答集約、送付

２．参加委員

会　長　　横井　朗

副会長　　木村　司

委　員　　荒川　康一、池田　聖子、石井　令人、伊藤　聖子、打川　敦、小笠原　豊、鎌田　あかね、長沢　薫

３．質疑応答（表記について　●委員、　→事務局）

「秋田県立近代美術館の入館者数・事業・展覧会等について」

●令和４年１２月末現在、ふるさと村への入村はすでに前年を上回っている一方、入館割合は８％と、これまでで最も低くなっている。コロナ禍から、社会経済活動が一定の回復を見せたにもかかわらず、入館者は伸び悩んでいるように見える。この状況をどのように分析しているか。

→令和４年度は、教育普及における利用状況が大きく影響している。セカンドスクール的利用や各種教室等が令和３年度実績の約３割と大きく減少した。家族で訪れることの多い秋田ふるさと村と違い、教育現場での慎重な判断により、集団での活動自粛で大きく減少したと分析する。また、物価指数の高騰により、美術鑑賞にお金と時間をかける余裕が無くなった家庭が増えたと分析する。

●目標に実績が届かない状況が続いている。目標設定はどのような基準で作っているのか。今後の入館者の動向を見極める上でも、より現実的な数値にすべきではないか。

→当館の利用者数目標は、秋田県が策定した「新秋田元気創造プラン」（Ｒ４～Ｒ７）の「重点戦略６教育・人づくり戦略」に、成果指標として掲げられているものである。過去の実績値を基に算出されており、令和４年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し低く設定している。しかし想定以上の県内におけるコロナ感染症の拡大と物価指数の上昇による影響が大きかった。改善すべくイベントの追加等も実施したが思うような効果は上げられなかった。今後も目標達成に向けて、あらゆる手立てを考え、実践していく。

●令和５年度の特別展は、一定の美術ファン以外にはその魅力の訴求が難しく、入館者数の伸び悩みが予測されるが、どのように魅力を伝え、入館者に繋げようとお考えか。

→縄文展においては作品の魅力を周知するため、秋田県埋蔵文化財センターをはじめとした縄文遺跡関係団体等とも連携し、広く周知を図る。三の丸尚蔵館展については、文化庁の助成を受け、宮内庁との連携や読売新聞社の協力を得ながら広報・物販にも注力している。また、歌川国芳展では、秋田大学と連携し、学生によるＳＮＳ等を活用した広報活動を予定しており、若い世代に浮世絵の興味関心を促す新たな取組だと考える。

●令和５年度の特別展「目でふれる　手であじわう」について、どのような内容の展示を予定されているのか。

→まず、展覧会名は「『見る』だけじゃもったいない！　みんなのキンビ　『からだじゅうであじわう展』」へと変更している。視覚的に「見る」ことに加え、触ったり、聴いたりできる作品の展示により、体全体で楽しむことのできる展覧会を市民参加型でつくり上げることを目指す。また、多方面と協働した関連ワークショップ等も企画しており、小さなお子様や障害のある方、高齢の方、また、これまで美術館に来館することが難しかった方なども含め、全ての方が参加し楽しんでいただける展覧会を目指す。

●作品にダメージを与えない照明器具は存在するものか。

→美術館・博物館専用に開発された超高演色 LED 照明なども視野に入れて整備していきたい。

●アンケートを見ると、来館者はやはり県央、県南に集中している印象。立地を理由にせず、よりよい企画作りに一層知恵を絞ってほしい。識者による記念講演会やギャラリートークも、誘客の呼び水あるいは作品の理解を深める手法として有効。ぜひ継続してほしい。入館者の内訳をみると、50 代以上が目立つ印象。広報活動について、メイン層（50 代以上）向けの新聞紙面のほか、SNS による仕掛けも強化してはどうか。また、県北における出前事業の充実を図っていただきたい。

→ご意見にあるように、よりよい企画づくりに注力していく。委員の皆様には引き続きご提案・ご助言等いただければ幸いである。なお、次年度（令和５年度）には、新規に、３Ｄの仮想空間上に仮想の近代美術館を置き、当館の収蔵品を高精細な３ＤＣＧで鑑賞したり、講演会を聴講したり、利用者同士でコミュニケーションできたりする「メタバース×キンビ」を構築予定である。令和５年度末の完成・発表を目指し取り組んでいく。実際の美術館を訪れるには困難な方にとって、このメタバース空間は、近代美術館の良質な文化・芸術を広く享受する機会の提供になると考えている。これに限らず、引き続き、当館に興味をもっていただける展示及び教育普及の手立てを講じていく。

●『特別展 日本画家 堀文子 百年の旅』の入場者数からの感想によると、70 代以上が 81 名、60 代が 54 名と、他世代の入場者数よりも圧倒的に多かったことがとても興味深く、ターゲットを絞った展示企画計画のモデルとなるのでは？と思った。今回のような、60 代～70 代以上の方へ来場を促すために、例えば旅行店とコラボして、美術鑑賞と横手や県南でのお食事をセットにした『日帰りツアー』などを企画してみるのはどうかと感じた。

→具体的なご提案をいただきありがたい。ご提案の通り、割安で利便性の高い交通手段や、チケット、昼食などをパッケージにして提供できないか、今後の展覧会においては、タクシー会社や旅行代理店、飲食店等に積極的に働きかけていく。

●なかなか入場者数は伸びなかったかもしれないが、内容は充実したものが多かったのではないか。
サントリー美術館の展示では、SNS で感想を投稿されている方を複数見た。秋田蘭画の展示構成には興味をひくような工夫があり見飽きなかったし、いただいたスタディーブックは子供も大人も楽しめるものだった。魁新報に掲載された解説もとても学びがあった。

→それぞれの展覧会に関心をもっていただき、また丁寧にご覧いただいたことに感謝したい。これを励みに、より多くの方に足を運んでいただけるよう、今後も、展示内容・構成はもちろん、関連企画・イベント、広報等、それぞれ知恵を絞っていきたい。
なお、秋田蘭画展では図録を提供できなかったが、たくさんの方にご協力いただいて開催できた展覧会であるため、報告書等の形でまとめたい。

●令和４年度の事業概況では、セカンドスクールの利用落ち込み▲１，８５８人の影響が大きいように見える。

→おっしゃるとおりである。セカンドスクール的利用は、コロナ禍の影響により実技の制作体験受入を停止している上、令和４年度の秋田県内における感染拡大にともない鑑賞体験のプログラム利用も大きく減少した。マスク着用等の規制が緩和された令和５年３月以降、さらに５月の５類相当への引下げも踏まえ、当館でも学校利用の再開を視野に入れた受入準備を進め、この３年間で来館できなかった児童生徒の利用について、市町村、学校等への広報に注力していく。

●キンビ・創作体験プログラムの「みんなの教室」は新年に相応しく楽しい内容にも関わらず、参加人数が少なく驚いた。絵馬や羽子板は、保護者の方には興味が薄いのか。

→冬の「みんなの教室」を開催するにあたり、寒い時期であること、日が短いことを考慮し、近年は短時間で手軽にできるプログラム構成を工夫している。令和４年度は「新年に願いをこめて」と題し、絵馬と羽子板のどちらかを制作する内容とした。アンケート結果では参加者の満足度は非常に高く、今後も教室の実施内容や作品の魅力を分かりやすくＰＲし、効果的に集客できるよう広報に努める。

「令和５～7 年度のミュージアム活性化事業３カ年計画について」

●「縄文写真展」は前回協議会でも資料があったが、ユネスコ世界文化遺産の大湯、伊勢堂岱といった本県の縄文遺跡群と関連した作品はあるのか。写真展と二つの遺跡を組み合わせた回遊企画、学芸員同士のコラボなど検討してはどうか。県立美術館や県立博物館といった他の県有類似施設とのコラボなどは考えていないか。連携することで相乗効果を生める企画もあると思う。近美へ足を運んでもらう仕掛けづくりの一つになり得る。数年先を見据えて検討してみてほしい。

→今回の展覧会では、世界遺産の構成資産である大湯・伊勢堂岱の出土品を被写体とした作品も展示の予定である。展示全体としては縄文美の世界を大きく捉えて、多様な造形の世界を体感できる内容になる予定だ。全国の縄文遺跡群の特徴などを紹介できるパネルなども提示したい。県内での来場・回遊を促進するアイデアは、おっしゃるように数年先を見据え、県立施設をはじめ市町村所管の関連施設とも連携を模索していく。

●市民も巻き込んで展示を盛り上げられるような仕掛けづくりができれば、入場者数に変化が期待できるのではないか。例えば、以前開催された岩合さんの写真展で、猫の写真を持参すると入場料割引というのがあった。持参いただいた写真を会場に展示するだけでなく、SNS などにも紹介したり、人気投票するなどして、市民と一緒に展示を盛り上げることができれば、集客にプラスの期待もできるのではないか。また、 懸賞付きや特典ありの思い切った企画があってもいいのではないかと思うことがある。

→今年度のサントリー展でも、懸賞付きイベントやチケットで飲食店割引などの特典企画など実施している。次年度も同様に展覧会ごとの実行委員会で企画を検討している。ご意見にあるような企画等については、展示担当を中心に館内でアイデアを出し合い、参加型で楽しめる魅力的なイベントやＰＲ等の方策について、今後も積極的に取り組んでいく。委員の皆様には今後も、それぞれのお立場で様々な視点からアイデアを頂戴できればありがたい。

●宮内庁三の丸尚蔵館の名品が秋田に来ること、驚異的だと思う。秋田市千秋美術館は長期休館中であり、芸術文化に興味のある方々が足を運び、賑わうことを願っている。

→三の丸尚蔵館の建て替えにともなう地方巡回事業として実施できることは、当館としてもまたとない機会と捉えている。民間との実行委員会、宮内庁との主催事業であるが、その他、文化庁の助成、読売新聞社の特別協力等も得ながら、現在、準備を進めているところである。マスコミ各社とも連携しながら、県内外に広く周知し、まずはより多くの方々に興味・関心をもっていただき、足を運んでいただけるよう尽力したい。

「全般に関すること」

●Twitter を拝見した。展示内容に絡めた動物の足跡の話題などは温かな気持ちになった。是非雪上にそれを見つけに行きたい！という気持ちになった。近代美術館（ふるさと村）は景色も美しいので、季節の変化や日常の何げない風景などに触れたツイートは、来場される方の楽しみが増えとても良いと思った。

→閲覧していただいていることが大変励みになる。日常の風景は、共感やよい反応をいただくことが多いので、来年度も継続していきたい。

●近代美術館のメタバース構想で、集客数に結び付くかどうかが議論になっているが、仮想空間で展示物を見るだけでなく、ギャラリートークが聴けたり、有名な美術者の解説や、指導が（有料でも）受けられたり、子どもたちがタブレットで描いた絵画作品を、絵画展として審査・表彰して仮想の美術館に展示するとか、プリントアウトして実際に飾るとか、可能性は広がると思う。

→具体的にご提案いただきありがたい。いただいたアイデアは、どれもメタバースで実現可能なご提案であり、当館では、教育普及的な内容を充実させ、収蔵品を単にＶＲで公開するだけではなく、参加者が能動的にアクセスし、双方向のコミュニティーを構築できるよう工夫していく。他に類を見ない「メタバース美術館」の先進事例として注目いただけるよう、構築・運用に注力していきたい。